

新規事業採択時評価結果（平成21年度新規事業化箇所）

担当課：北海道開発局都市住宅課
担当課長名：小田島 聖

事業の概要

事業名	みなみおどおりおほし 都市計画道路 南大通大橋	事業区分	街路	事業主体	北海道
起終点	自：北海道江別市上江別東町 至：北海道江別市東光町	延長	1.2 km		
<p>事業概要</p> <p>都市計画道路南大通は、国道12号に並行し、江別市の中心部と東部を連絡する幹線道路である。本事業は、未整備となっている1級河川千歳川に架かる橋梁の整備を行い、地域間連携の強化や都市内交通の混雑緩和を目的として実施するものである。</p> <p>事業の目的、必要性</p> <p>千歳川によって分断されている東部地区への未整備区間を整備することにより、江別市の主要道路網を形成し、高規格幹線道路ICへの円滑な接続など地域間連携の強化、交通の分散による踏切や周辺道路の混雑緩和、歩道等の整備による歩行者の安全確保を図るものである。</p> <p>全体事業費 59億円 計画交通量 13,200台/日</p> <p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見

・江別市を含む石狩地方開発促進期成会や地元促進期成会より早期整備の要望を受けている。

事業採択の前提条件

- ・ 便益が費用を上回っている。
- ・ 都市計画決定済。
- ・ 円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.6	総費用：49億円 （事業費：48億円 維持管理費：0.51億円）	総便益：78億円 （走行時間短縮便益：68億円 走行経費減少便益：7.8億円 交通事故減少便益：2.0億円）	基準年 平成20年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.8 (交通量+10%)	B/C=1.5 (交通量-10%)		
		事業費変動	B/C=1.5 (事業費+10%)	B/C=1.8 (事業費-10%)		
	事業期間変動	B/C=1.5 (事業期間+20%)	B/C=1.7 (事業期間-20%)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	○	渋滞損失時間の削減 ■整備前 353万人時/年⇒整備後 274万人時/年 約30%の渋滞損失時間が削減される。 ■当該地域は、千歳川によって分断されており、市中心部や札幌市方面へは、主に国道12号により連絡しているが、交通が集中するため混雑が発生している。また、江別長沼線の国道交差点手前の踏切では、遮断による渋滞が発生している。 当該路線を整備することで交通量が分散され、混雑や渋滞の解消が期待される。		
		事故対策	○	歩道が整備されることにより、歩行者の安全性が向上する。		
		歩行空間	○	■小学校の通学路に指定されており、広幅員の歩道を整備することで通学児童等の安全性が向上する。 ■都市計画マスタープランにおいて、歩行系ネットワーク道路に位置付けられており、整備により安全で快適な歩行空間が確保される。		
	社会全体への影響	住民生活	○	■第二次医療施設へのアクセス向上が期待できる。 ■当該路線の沿線では、土地区画整理事業が2箇所施行されており、市中心部や商業施設などへのアクセス向上が期待される。		
		地域経済	○	■都市計画マスタープランにおいて、北海道縦貫自動車道江別東ICおよび道央圏連絡道路江別ICへの接続が計画されており、広域的な地域間連携強化の役割を担う位置付けとなっている。		
		災害	○	■地域防災計画において、当該地域の洪水時避難先に指定されている野幌・大麻方面への新たな避難ルートが整備され、市民の安全確保が期待される。		
		環境	○	■CO ₂ 排出量の削減 整備前 158,882 t-CO ₂ /年⇒整備後 158,729 t-CO ₂ 、153t-CO ₂ のCO ₂ が削減される。		
	地域社会	○	■千歳川による分断が解消され、都市幹線道路として江別市の東部と中心部を結ぶ新たなネットワークが形成される。			
事業実施環境			■都市計画マスタープランにおいて位置付けあり			

採択の理由

事業主体である北海道が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.6と便益が費用を上回っていると同時に、都市計画手続きが完了していることから、事業採択の前提条件が確認できる。広域的なアクセス向上が見込まれるなど整備の必要性・効果は高いと判断できる。以上より、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額と割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。